

付録-7 詳細調査報告書作成要領

—目次—

	ページ
詳細調査写真	1
漏水調査票	2
鋼塗膜調査票	3
RC床版調査	5
F11T遅れ破壊調査	6
BOX構造内部調査	8
ケーブル詳細調査	9
鋼床版等疲労調査	13
コンクリート健全性調査	15
鋼製橋脚隅角部疲労調査	19
塩害調査	21
アルカリ骨材反応調査	23

漏水調査票

施設管理No.		路線名		行政区		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		建設年	

調査径間	総合評価（※1）				損傷状況等（※2）	調査結果（※3）	備考
	舗装	排水管	排水柵	伸縮装置			
1	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
2	○	○	○	×	伸縮装置からの漏水が見られる	×	
3	○	○	×	○	排水柵が破損している。	×	
					• 記入例		
							• 備考欄には、通水試験結果を記入すること
総合評価	E						
評価	7径間中6径間において、伸縮装置の漏水が見られた。鋼部材の腐食を助長しており、対策が必要である。						

※1 総合評価は、各部位について、評価（位置）の最低を評価する。評価は健全は○、不具合がある場合は×とする。

※2 漏水状況やそれに伴う損傷状況等を具体的に記述する。

※3 調査結果は、データベースに反映する結果であり、各部位について、調査径間の総合評価の最低を採用するものとする。

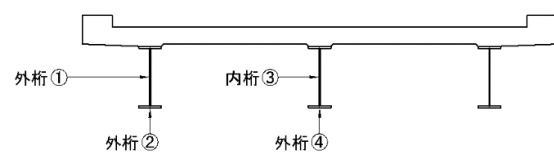
鋼塗膜調査票

施設管理No.	路線名	行政区	ID
橋梁名	緊急交通路	工営所	点検年月日
上部構造形式	下部構造形式	橋長	建設年

調査位置図

機能水準 組合せ判定状況

・塗装系や面積などが分かる場合は記載すること。



・記入例

鋼塗膜調査票

評価対象径間				①目視で腐食が最も進んでいる径間										②目視で腐食が平均的である径間										調査結果(※1)	
種別	塗装仕様区分	部位	塗装系(※2)	塗装面積(m)(※3)	位置	塗膜調査項目					塗膜調査項目					機能水準	機能試験平均	機能水準平均							
						さび	はがれ	白亜化	われ	ふくれ	機能試験	機能水準	さび	はがれ	白亜化				われ	ふくれ	機能試験	機能水準			
中央部	一般外面	外桁			ウェブ	3	3	3	3	3	2	10	3	3	3	3	3	2	10	2	10				
		下フランジ	3	3	3	3	3	2	10	3	3	3	3	3	2	10	2								
	内桁	ウェブ	3	3	3	3	3	2	10	3	3	3	3	3	2	10	2								
		下フランジ	3	3	3	3	3	2	10	3	3	3	3	3	2	10	2								
桁端部	一般外面	外桁			ウェブ	3	3	3	3	3	3	10	3	3	3	3	3	2	10	2	10				
		下フランジ	3	3	3	3	3	2	10	3	3	3	3	3	0	10	2								
	内桁	ウェブ	3	3	3	3	3	3	10	3	3	3	3	3	2	10	2								
		下フランジ	3	3	3	3	3	2	10	3	3	3	3	3	0	10	2								
箱桁内面	ウェブ											-						-	0	0					
	下フランジ											-						-							
その他(※4)					特記事項																				
	塗装面積計			0																					

- ※1 機能水準は、右表の組合せ判定表に基づき部位毎に評価・記入する。なお、中央部外面系は、外桁と内桁で平均する。
- ※2 詳細点検および塗装工事の対象径間全体の塗装系と塗装面積を記入。複数ある場合は、数量の大きなものを記入し、記入できなかったものはその他に記載すること。
- ※3 塗装面積は詳細な算出を行わない場合は、本市が与する塗装管理図をもとに概算で入力し、算出根拠を「特記事項」記載のこと。
- ※4 その他には、照明柱や鋼製橋脚などの部位について、塗装系と塗装面積を記入する。(行を追加してすべて書くこと)

はがれ評価	腐食(a~e)			
	e, d	c	b	a
	さび評価(3~0)			
0	2	4	6	8
1	4	6	8	8
2	4	6	8	8
3	4	6	8	10

種別	①目視で腐食が最も進んでいる径間				②目視で腐食が平均的である径間			
	ウェブ	さび	下フランジ	さび	ウェブ	さび	下フランジ	さび
中央部一般外面外桁	写真	3	写真	3	写真	3	写真	3
		はがれ		はがれ		はがれ		はがれ
		3		3		3		3
		機能水準		機能水準		機能水準		機能水準
10	10	10	10					
中央部一般外面内桁	写真	3	写真	3	写真	3	写真	3
		はがれ		はがれ		はがれ		はがれ
		3		3		3		3
		機能水準		機能水準		機能水準		機能水準
10	10	10	10					
中央部箱桁内面	写真	0	写真	0	写真	0	写真	0
		はがれ		はがれ		はがれ		はがれ
		0		0		0		0
		機能水準		機能水準		機能水準		機能水準
-	-	-	-					
桁端部一般外面外桁	写真	3	写真	3	写真	3	写真	3
		はがれ		はがれ		はがれ		はがれ
		3		3		3		3
		機能水準		機能水準		機能水準		機能水準
10	10	10	10					
桁端部一般外面内桁	写真	3	写真	3	写真	3	写真	3
		はがれ		はがれ		はがれ		はがれ
		3		3		3		3
		機能水準		機能水準		機能水準		機能水準
10	10	10	10					
桁端部箱桁内面	写真	0	写真	0	写真	0	写真	0
		はがれ		はがれ		はがれ		はがれ
		0		0		0		0
		機能水準		機能水準		機能水準		機能水準
-	-	-	-					

塗膜状況写真

掲載例

全景		径間		橋面		径間		橋梁下面		径間		橋名板		径間		塗歴板		径間	
																			
写真番号	1	径間		写真番号	2	径間		写真番号	3	径間		写真番号	4	径間		写真番号	5	径間	
																			
写真番号	6	径間		写真番号	7	径間		写真番号	8	径間		写真番号	9	径間		写真番号	10	径間	
<p>備考 (記載例) ・部分的な錆が確認されるが、局所的なものであったため、評価3とした。 ・塗膜のはがれは確認されなかったため、評価3とした。 ・局所的に白亜化が確認されるが、非常に軽微であり、評価3とした。 ・塗膜われは確認されなかったため、評価3とした。 ・塗膜のふくれは確認されなかったため、評価3とした。</p>																			

・必要径間数分、撮影すること。
 ・目的は、塗装の状況が把握できることであるので、各径間ごとの状況が分かるように撮影すること。

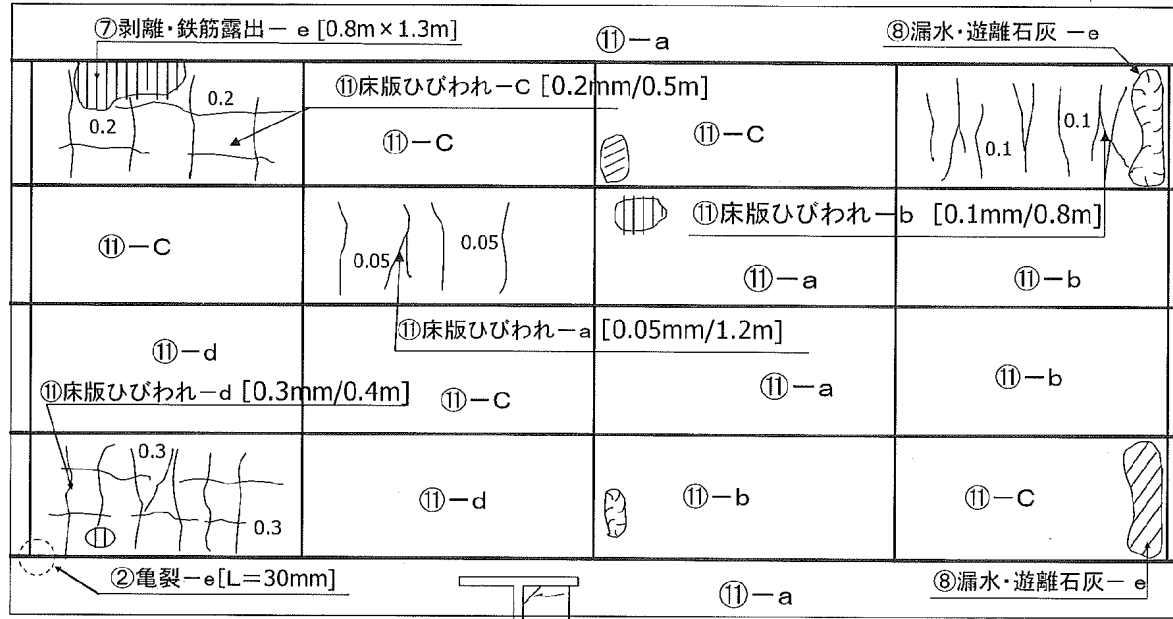
RC床版調査

施設管理No.		路線名		行政区		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		建設年	

掲載例

調査径間	~	補修工事	有 ・ 無
------	---	------	-------

損傷詳細図



換算方法

- A : 10点
 - B : 8点
 - C : 6点
 - D : 4点
 - E : 2点
- (算出例)

評価	点数	パネル数	点数×パネル数
A	10	5	50
B	8	4	32
C	6	6	36
D	4	3	12
E	2	0	0
合計		18	130
平均点	130/18=7		
総合評価	B		

総合評価は、以下の基準による


- A : 8点を越え10点以下
- B : 6点を越え8点以下
- C : 4点を越え6点以下
- D : 2点を越え4点以下
- E : 0点を越え2点以下

平均値	7	総合評価	B
その他			

- ※1 径間毎に、パネルごとの評価図を作成する。また、損傷区分ごとに代表パネルにてクラック図を作成する。
- ※2 総合評価（各パネルの評価の平均値）は、算出方法は詳細調査要領による。（小数点以下第2位を切り捨てとする）
- ※3 長支間で1枚での記入が困難な場合は、分割して記載する。
- ※4 RC床版を補強済（鋼板接着等）の場合は、補強範囲を図示すること。また、補強部の叩き点検により充填不良が確認された場合は、範囲を図示する。
- ※5 作業時には、作業区域を明確にして第三者に危険の及ぶことのないよう注意する。
- ※6 点検者は落下物に十分注意を払い、自身の安全を確保しなければならない。
- ※7 対象となる径間の全パネルの写真を撮影し、詳細調査写真に納めること。

F11T遅れ破壊調査（調査位置図）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222,135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査径間	~
調査位置図	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>• 全体の中で、位置が特定できるように表現すること。</p> </div> 
その他	

F11T遅れ破壊調査（調査結果）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222.135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査径間	～	調査結果（※1）							
接合部概略図									
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ・添接部など、使用されていることが判明したら、各項目ごとに調査し、結果を記載すること。 </div>		検査		結果				備考	
				調査箇所①	調査箇所②	調査箇所③	調査箇所④		
		使用本数（全数）							
		損傷ボルト本数	脱落						
			破損						
			ゆるみ						
			その他						
		合計							
		第三者被害（有無）							
		検査		結果				備考	
				調査箇所⑤	調査箇所⑥	調査箇所⑦	調査箇所⑧		
		使用本数（全数）							
		損傷ボルト本数	脱落						
			破損						
			ゆるみ						
その他									
合計									
第三者被害（有無）									
検査		結果				備考			
		調査箇所⑨	調査箇所⑩	調査箇所⑪	調査箇所⑫				
使用本数（全数）									
損傷ボルト本数	脱落								
	破損								
	ゆるみ								
	その他								
合計									
第三者被害（有無）									
判定（径間単位での第三者被害可能性）									
その他									

※1 打撃によって塗膜にキズが入ったときは、部分補修（塗装）を実施する。

BOX構造内部調査（調査位置図）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222.135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査径間

～

- 主桁が箱桁構造である場合は、その内部を鋼部材として調査し、展開図を掲載すること。
- また、次回点検のため、マンホール位置を明示しておくこと。

※マンホール位置を明示すること。（シール貼り付け位置）
 ※亀裂に関しては、鋼床版等疲労調査（調査結果）の様式に取りまとめる

G2

調査位置図

マンホール位置

損傷の凡例	
腐食	
剥離	
鉄筋露出	
コンクリート補強材の損傷	
漏水	
遊離石灰	
ひびわれ	
その他	

8

ケーブル詳細調査 腐食調査（過流探傷法1/2）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222,135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

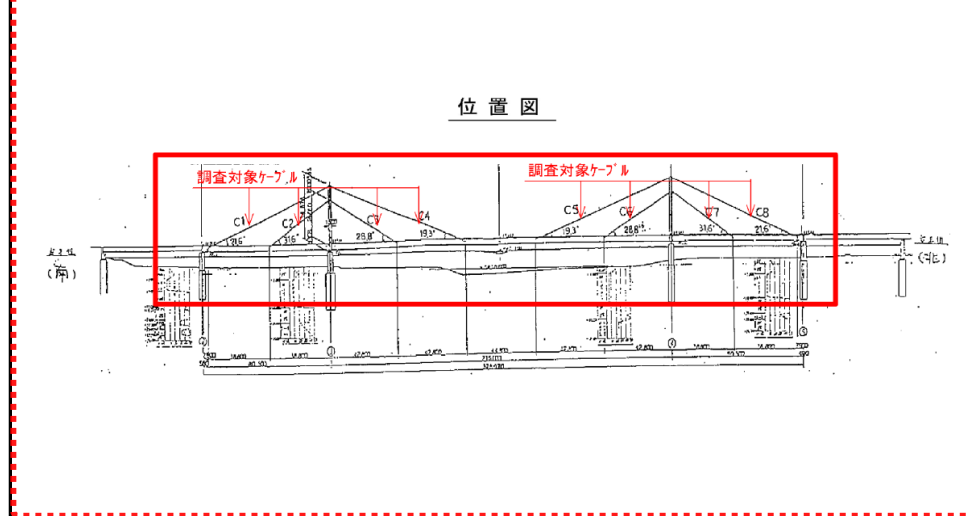
調査概要	最大腐食ケーブル調査結果
	ケーブルNo
	腐食評価グラフ

調査結果											
開封または全磁束法要否判定											
ケーブルNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	要
腐食評価 θ_i											
ケーブルNo	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
腐食評価 θ_i											
最大腐食ケーブルNo										最大腐食位置	m

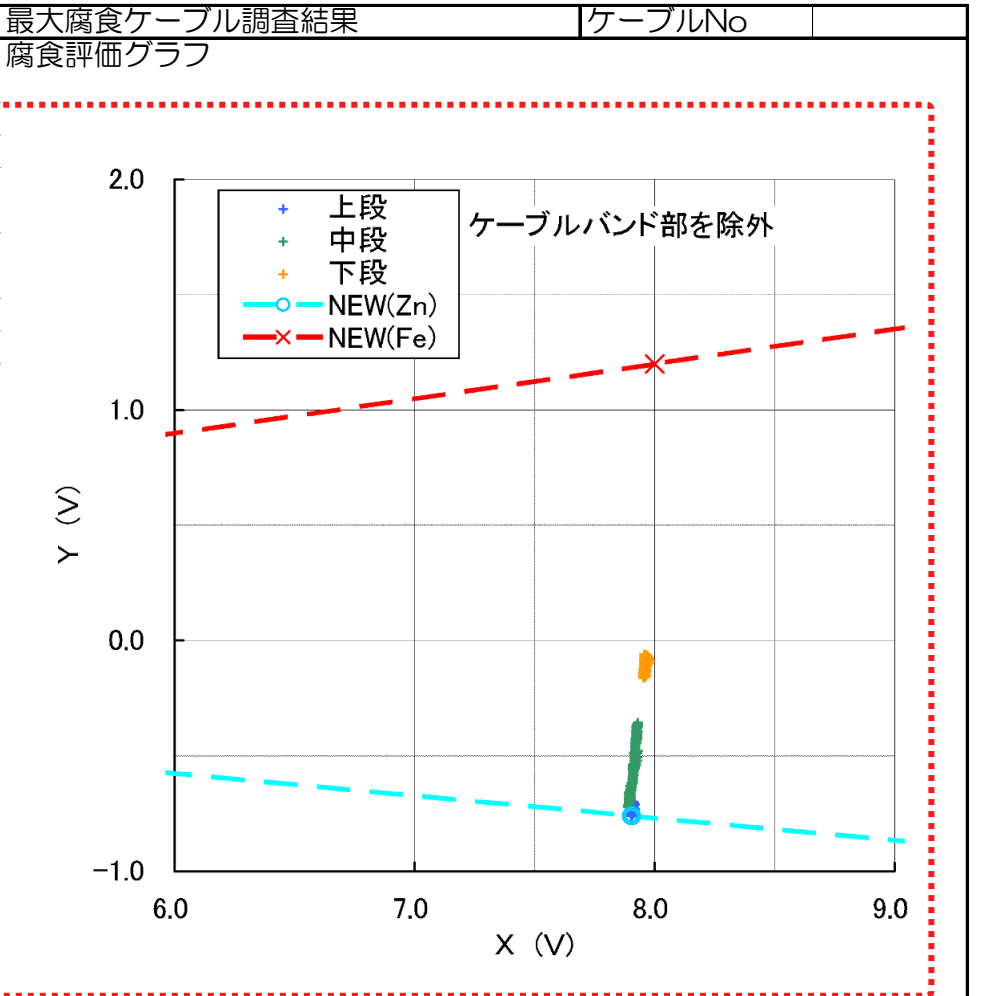
※下端からの位置で示す。

ケーブルNo位置図

・本調査は非常に特殊であることから、監督職員とよく協議すること。



・掲載例

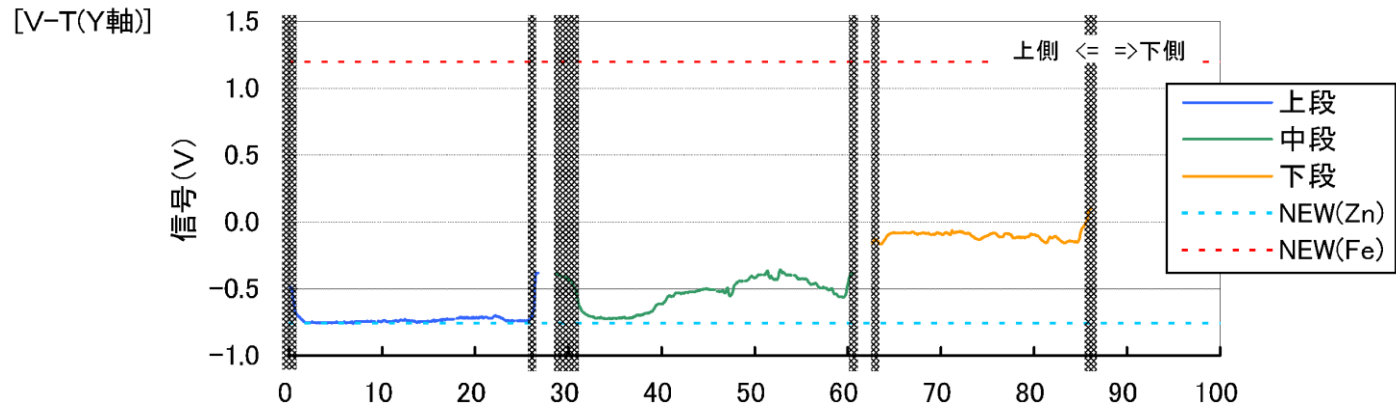
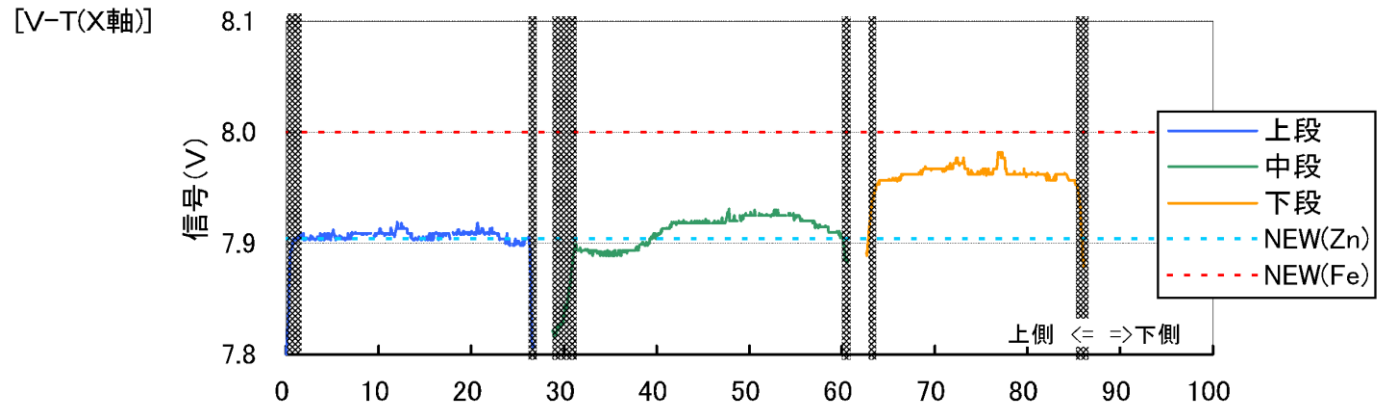


ケーブル詳細調査 腐食調査（過流探傷法2/2）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222, 135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

・掲載例

電圧変化グラフ



ケーブル詳細調査 腐食調査（開封調査）

・掲載例

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222, 135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査概要

--

調査結果

ケーブルNo		調査位置	
腐食量(%)		腐食の状態	
腐食評価	A	腐食深さ(何層目)	
		断面欠損の有無	
腐食量判定シート	本数	基準腐食量	腐食量
腐食なし	9999	0.0%	0.0%
白錆	0	0.3%	0.0%
赤錆点在	0	1.1%	0.0%
赤錆1/2面	0	2.9%	0.0%
赤錆全面,孔食有り	0	4.7%	0.0%
断線有り	0	100.0%	0.0%
合計	9999	-	0.0%

調査写真



ポリエチレンシートを固定していた箇所



孔食あり（ケレン後）



孔食あり（ケレン後）



素線径計測



上面 素線間に溝あり ケレン前



錆が目立つ箇所



内層素線確認（上面クビ割り）



内層素線確認（下面クビ割り）

鋼床版疲労調査（調査位置図）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222.135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査径間	～	部材名		部材番号	
------	---	-----	--	------	--

調査位置図

- ・本調査は鋼床版の主に裏面におけるき裂が発見された場合に掲載する。
- ・調査位置は径間図だけでなく、全体図のうちどこに位置するかがわかるキープラン図も合わせて掲示すること。

その他	
-----	--

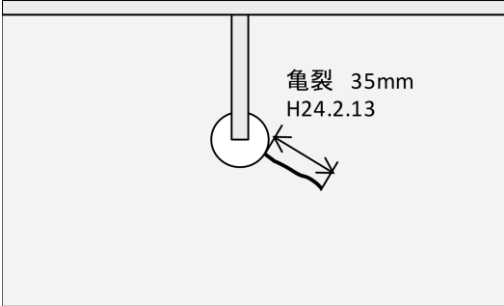
鋼床版疲労調査（調査結果）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222 .135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査径間	～
損傷図（※1）	



・掲載例

調査結果							探傷試験スケッチ図
検査		結果					備考
		番号①	番号②	番号③	番号④	番号⑤	
目視 検査	塗膜われ	無	無	無	無	有	
	局所錆	無	無	無	無	有	
渦流探傷試験（有・無）		無	無	無	無	有	
磁粉探傷試験（mm）						35	
判定		×					
評価							

※1 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。

※2 塗膜を除去した場合は、部分補修（塗り替え）を実施する。

コンクリート健全性調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員	建設年	交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名		点検者名			終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

中性化深さ調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称		所在地	起	終	
委託名		業者名		点検者名					

調査位置詳細図（※1）	調査結果						
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> ・記入例 </div>	調査径間	1		調査径間			
	調査部位	主桁		調査部位			
	(m) 中性化深さ測定結果 (※2)	①	80.0	(m) 中性化深さ測定結果 (※2)	①		
		②	97.0		②		
		③	95.0		③		
	平均	90.7		平均			
	(m) かぶり深さ測定結果 (m)	①	30.0	(m) かぶり深さ測定結果 (m)	①		
		平均	30.0		平均		
		環境条件 (通常:1、塩害:2)	1		環境条件 (通常:1、塩害:2)		
	発錆限界深さ (※3)	20.0		発錆限界深さ (※3)			
竣工年	1987年		竣工年				
供用年数			供用年数				
判定（中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○）	×						
その他	中性化深さが著しく大きいため、コンクリートの品質低下が懸念される。						

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。（平均値からの偏差(%)=[(個々の値-平均値)/平均値]×100）

※3 発錆限界深さは、通常環境（かぶり深さ-10mm）、塩害環境（かぶり深さ-25mm）とする。

圧縮強度調査（コア法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称		所在地	起	終	
委託名		業者名		点検者名					

調査結果	試料1	位置記号	• 記入例		供試体寸法	質量 (kg)	1.214	
		1	供試体質量 (g)	1214		見掛けの密度	2410	
			供試体長 (mm)	1	136.8	• 記入例	最大荷重 f_c' (N)	111000
				2	137		高さ補正值	1
		部材記号	平均	136.9	高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	30.1		
		主桁	供試体直径 (mm)	1	68.4	静弾性係数 (kN/mm ²)	24.5	
				2	68.6	設計基準強度 (N/mm ²)	14	
			平均	68.5	判定 (圧縮強度 > 設計基準強度なら○)	○		
		試料2	径間	供試体寸法		質量 (kg)		
				供試体質量 (g)			見掛けの密度	
	供試体長 (mm)			1		最大荷重 f_c' (N)		
				2		高さ補正值		
	部位		平均		高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)			
			供試体直径 (mm)	1		静弾性係数 (kN/mm ²)		
				2		設計基準強度 (N/mm ²)		
			平均		判定 (圧縮強度 > 設計基準強度なら○)			
	試料3		径間	供試体寸法		質量 (kg)		
				供試体質量 (g)			見掛けの密度	
供試体長 (mm)		1			最大荷重 f_c' (N)			
		2			高さ補正值			
部位		平均		高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)				
		供試体直径 (mm)	1		静弾性係数 (kN/mm ²)			
			2		設計基準強度 (N/mm ²)			
		平均		判定 (圧縮強度 > 設計基準強度なら○)				

圧縮強度調査（反撥硬度法）

管理番号	工営所	路線名	監督職員	点検日
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称
委託名	業者名	・記入例	点検者名	所在地

調査結果	調査No	1		調査No			
	調査部位	主桁		調査部位			
	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数
	1	48	16	47	1	16	
	2	45	17	44	2	17	
	3	51	18	50	3	18	
	4	47	19	46	4	19	
	5	50	20	49	5	20	
	6	45	21	44	6	21	
	7	47	22	46	7	22	
	8	48	23	47	8	23	
	9	44	24	43	9	24	
	10	44	25	43	10	25	
	11	53	26	52	11	26	
	12	46	27	45	12	27	
	13	44	28	43	13	28	
	14	45	29	44	14	29	
	15	45	30	44	15	30	
	平均値	23		平均値			
	標準偏差σX	4.47		標準偏差σX			
	打撃角度α (°)	+90°		打撃角度α (°)			
	角度補正值ΔR	-3.1		角度補正值ΔR			
	補正反発硬度R	19.9		補正反発硬度R			
	補正前圧縮強度F' (N/mm2)	7.3		補正前圧縮強度F' (N/mm2)			
	材齢係数K	0.63		材齢係数K			
	補正後圧縮強度F (N/mm2)	4.6		補正後圧縮強度F (N/mm2)			
	設計基準強度(N/mm2)	18		設計基準強度(N/mm2)			
	判定	○		判定			

鋼製橋脚隅角部疲労調査（調査位置図）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222,135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査径間	～	橋脚番号	
調査位置図（※1）	<div style="border: 2px dashed red; border-radius: 20px; padding: 20px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> 本調査は鋼製橋脚に亀裂が発見された場合に掲示する。 個別の橋脚だけでなく、全体図のうちどこに位置するかがわかるキープラン図も合わせて掲示すること。 </div>		
その他			

※1 隅角部の詳細図が無い場合は、溶接線の位置が分かるようにスケッチする。

鋼製橋脚隅角部疲労調査（調査結果）

施設管理No.	東淀川5	路線名	府道大阪高槻京都線	行政区	東淀川	交通量	34066	ID	34.7297222,135.515556
橋梁名	柴島歩道橋	緊急交通路		工営所	十三工営所	大型混入率	15.3%	点検年月日	2016/10/16
上部構造形式	I型下路式	下部構造形式	円形支柱	橋長	25.7m	有効幅員	1.5m	建設年	1968

調査径間	～	橋脚番号													
損傷図（※1）		調査結果													
		検査	結果					備考							
			隅角①	隅角②	隅角③	隅角④	隅角⑤								
		検目 査視	塗膜われ・亀裂												
			局所錆												
		渦流探傷試験（有・無）													
磁粉探傷試験（mm）															
探傷試験スケッチ図															
判定※3（亀裂の有無）		<table border="1" style="width: 100%; height: 40px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> </table>													
その他	<table border="1" style="width: 100%; height: 40px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 100%;"></td> </tr> </table>														

※1 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。

※2 塗膜を除去した場合は、部分補修（塗り替え）を実施する。

※3 亀裂の有無を記載すること。

塩害調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員	建設年	交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名		点検者名			終

調査位置図	
その他	

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

塩害調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称		所在地	起	終	
委託名		業者名		点検者名					

調査位置詳細図（※1）	調査結果				
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block; color: red;"> ・記入例 </div>	位置記号	導流部A			
	部材記号	Wa1			
	含有塩分量 測定結果 (kg/m ³) (※2)	表面部 (0-30mm)	0.25		
		中間部 (30-60mm)	0.2		
		深部 (60-90mm)	0.1		
		深部 (90-120mm)	0.1		
	中性化深さ(mm)	2			
	かぶり深さ測定結果(mm)	80			
	鉄筋位置の塩化物イオン濃度	0.1			
	竣工年	1989			
供用年数	22				
判定（1.2kg/m ³ 以上：要対策、1.2kg/m ³ 未満：対策不要）		対策不要			
評価	塩化物イオン濃度は極めて低く、塩害による損傷が生じる可能性は低い。				

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。

アルカリ骨材反応調査（調査位置概略図）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員	建設年	交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名				点検者名	終
位置記号		～			部材記号				
調査位置図（※1）									
その他									

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。（基本となる部材からの距離などを記入）

アルカリ骨材反応調査（調査結果）

管理番号	工営所	路線名	監督職員	点検日
施設名称	延長	幅員	建設年	交差対象物名称
委託名		業者名	点検者名	所在地
				起終

位置記号	~	部材番号
試料 1	基長 (mm)	
	標準養生	解放膨張量 (mm)
		解放膨張率 (%)
	時間	24h 48h 72h 96h 120h 144h 168h 1W 2W 3W 4W 5W
	残存膨張量 (mm)	0.026 0.036 0.037 0.04 0.039 0.043 0.047 0.047 0.048 0.048 0.049 0.049
	残存膨張率 (%)	0.026% 0.036% 0.037% 0.040% 0.039% 0.043% 0.047% 0.047% 0.048% 0.048% 0.049% 0.049%
	時間	6W 7W 8W 9W 10W 11W 12W 13W
	残存膨張量 (mm)	0.049 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048
	残存膨張率 (%)	0.049% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048%
	全膨張量 (mm)	0.048
全膨張率 (%)	0.048%	
残存膨張性	無	
試料 2	基長 (mm)	
	標準養生	解放膨張量 (mm)
		解放膨張率 (%)
	時間	24h 48h 72h 96h 120h 144h 168h 1W 2W 3W 4W 5W
	残存膨張量 (mm)	0.026 0.036 0.037 0.04 0.039 0.043 0.047 0.047 0.048 0.048 0.049 0.049
	残存膨張率 (%)	0.026% 0.036% 0.037% 0.040% 0.039% 0.043% 0.047% 0.047% 0.048% 0.048% 0.049% 0.049%
	時間	6W 7W 8W 9W 10W 11W 12W 13W
	残存膨張量 (mm)	0.049 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048
	残存膨張率 (%)	0.049% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048%
	全膨張量 (mm)	0.048
全膨張率 (%)	0.048%	
残存膨張性	無	
試料 3	基長 (mm)	
	標準養生	解放膨張量 (mm)
		解放膨張率 (%)
	時間	24h 48h 72h 96h 120h 144h 168h 1W 2W 3W 4W 5W
	残存膨張量 (mm)	0.026 0.036 0.037 0.04 0.039 0.043 0.047 0.047 0.048 0.048 0.049 0.049
	残存膨張率 (%)	0.026% 0.036% 0.037% 0.040% 0.039% 0.043% 0.047% 0.047% 0.048% 0.048% 0.049% 0.049%
	時間	6W 7W 8W 9W 10W 11W 12W 13W
	残存膨張量 (mm)	0.049 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048 0.048
	残存膨張率 (%)	0.049% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048% 0.048%
	全膨張量 (mm)	0.048
全膨張率 (%)	0.048%	
残存膨張性	無	
アルカリ骨材反応 (※2)		
判定	×	
評価		

※1 促進養生試験（JCI-DD2）またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。